

ソフト・パッケージやツールを活用して信頼性の高いシステムとして素早く作ることができる。

第6に、戦略情報システムとして継続的に競争優位に立ち続けるためには、情報システムを活用することでイノベーションを起こしていかなければならないことを実感し、システムのライフサイクル全体を通して常にシステムの活用度が高まるようユーザーに働きかけることができる。

〈質疑応答〉

1. S I Sの主役について

理想的にはC I OがS I S推進のリーダーシップを握るのが望ましい。情報システム部門がその役割をまったく担っていないとすれば、情報システム部門は単なるソフトウェアの生産工場になってしまうだろう。一方、情報システム部門がS I Sをリードしていくならば、それは将来、プランニングに特化した部隊と生産に特化した部隊に分化していく可能性がある。

2. S I Sの要点

現在銀行各社が取り組んでいる第3次オンライン計画の勘定系のシステムは、競争上必要不可欠ではあるが、

だからといって、競争優位を生み出していなければS I Sとはいえない。S I Sの要点は、他社がやっていることで競争優位に直接つながらないものはなるべく手をかけずにできるようにし、他社がやっていないことは力を投入して、1歩だけ先んじ、そして相手の出方をみてさらにその先を行く手を打ち続けることである。

〈日経コンピュータに掲載されたS I S関連の記事〉

1. 「別冊 アプリケーション・デザインー戦略的情報システムとその構築法」1987年6月22日発行
2. 「S I Sー企業の死活を握る戦略的情報システムへ挑戦始まるー」1987年10月26日号
3. 「中堅・中小企業のS I S徹底研究」1988年10月10日号
4. 「第3回バックログ関連実態調査」1989年1月26日号
(東京大学・新宅純二郎記)

(O R企業サロン企画委員会より)

今回をもちましてサロンの要旨ご報告を終了させていただきます。いろいろと有難うございました。ご参加者は第1回36名、第2回32名、第3回45名、第4回46名、第5回42名でございました。来年度もよろしくご協力賜りますようお願いいたします。

研究部会報告 (その1)

●決定理論とその応用●

●第1回

日時：5月28日 15:00~17:30 出席者：18名

場所：大阪大学基礎工学部数理教室大セミナー室

テーマと講師：1. 「A Two-Armed Bandid Probem: The Case of Two Populations」 浜田年男 (姫路短期大学)

2. 「Optimal Search for a Randomly Arriving and Departing Target」 中井暉久 (大阪大学)

●第2回

日時：6月25日 15:00~17:30

出席者：15名

場所：大阪大学基礎工学部数理教室大セミナー室

テーマと講師：

1. 「ポーカーゲームにおける標本情報の価値」
阪井節子 (甲子園大学)
2. 「在庫管理に関する論文紹介(2編)」
坂口 実 (大阪大学)

●第3回

日時：9月5日 14:00~15:30

出席者：17名

場所：大阪大学基礎工学部共通セミナー室

テーマと講師：

「Potential Function in Non-Cooperative Games」 L. S. Shapley 教授